中国日本商会

今どきコラムー73

中国雑談

蘇世民書院

清華大学蘇世民書院は 9 月 7 日午後、2018 年クラス新入生入学式を執り行った。

筆者はこの書院を見学したことがある。清華大学には多くの有料の研修クラス、総裁クラス、EMBA コースがあるが、大学教育以外で、金儲けや個人の影響力を高めるという目的ではない本当の教学・教育を行うことは、それほど多くはない。米国の著名な金融家でブラックストーン・グループの創設者であるスティーブン・シュワルツマン（中国名は蘇世民）は、彼の個人的寄付を基礎に清華大学と共同で資金調達活動を行い、蘇世民プロジェクト発展基金を設立し、蘇世民書院を成立させたが、この書院は上述のような金儲けプロジェクトとは一線を画する。

蘇世民書院

蘇世民書院での学習には学費を納める必要はなく、学生は 45％が米国からで、20％を中国から募集し、残りの 35％は世界のその他の国の学生となっている。過去数年間、日本以外の各国の学生は積極的にこれに申し込み、ここで勉学していったが、日本は蘇世民学院のスタートの年にソフトバンク上層部の強い推薦のもと 2 人の学生がここで勉強しただけで、その後ずっと日本から若者がここに学習交流にやってくることはなかった。

書院が設置している課程を見てみると、おもに公共政策、経済管理、国際研究という 3 つの学科があって、英語で授業が行われる。中心となる課程は清華大学とハーバード、イ

ェール、プリンストン、スタンフォード、デューク、オックスフォードなどの世界の名門校の大学者が念入りに設計したものだ。どの中心課程も中国と国外の著名教授との共同授業で、学生たちは多元的な角度から、未来のリーダーとして熟知すべき経済管理・国際研究・国際研究・公共政策・中国文化などの方面の要となる問題や分析方法を学習し、理解する。一年の学習を経て、試験に合格すると、清華大学の修士の学位が授けられる。

蘇世民書院は清華大学構内に設けられ、ハーバードやイェール、オックスフォードやケンブリッジなどのような寄宿制の学院である。選りすぐりの学生たちが蘇世民書院に一年間住み込んで、学習とともに文化を体験する。

現在の院長は薛瀾である。

毎年募集する 200 名の学生のなかで、米国と中国が 65％を占めるほか、残る 70 名の学生の中には数名の日本人学生枠もあるはずなのに、申し込む日本人学生がほとんどいないのは、残念なことである。

『日本企業リーダー必読』編集長